

テレビドラマに見られる喫煙関連シーンに関する調査

サカグチ サナエ サカグチ タケヒロ
坂口 早苗*1 坂口 武洋*2

目的 日本では1998（平成10）年4月1日になって、ようやく日本たばこ協会は、テレビやラジオで、たばこ個別銘柄のCMを中止した。われわれは、銘柄CMの中止前後に制作・放送された、ワーストスモーカーの1人にあげられた人気俳優が出演した、視聴率の高いドラマに見られる喫煙関連シーンについて調査した。

調査方法 調査対象ドラマの収録ビデオから放送時間を計測し、その中から喫煙に関連したシーンの解析を行った。喫煙関連シーンは喫煙に関するすべてのシーンであり、喫煙シーンとセットの道具などの場面の合計である。喫煙シーンとは、実際の喫煙（出演者の誰かが喫煙している場面）、たばこに火をつける、たばこの火を消す、副流煙、置きたばこ、銘柄描写シーンおよびセリフなどの場面である。セットの道具とは、火無したばこ、たばこ箱からたばこを出す、吸い殻、たばこ箱（銘柄不明）、灰皿などの場面である。規制前では、「番組A」「番組B」「番組C」のドラマを、規制後では、「番組D」「番組E」「番組F」のドラマを調査した。

結果 喫煙関連シーンの回数は、規制前156.3回（1時間当たりの回数：18.2）、規制後344.3回（37.3）であった。そのうち、喫煙シーンは、規制前93.3回（10.8）、規制後167.7回（17.9）、実際の喫煙は、規制前53.3回（6.1）、規制後98.0回（10.5）であった。銘柄描写シーンの回数は、規制前5.0回（0.6）であったのが、規制後15.3回（1.6）であり、1ドラマ当たりの平均描写時間はそれぞれ45秒と1分36秒であった。

結論 今回調査したドラマにおいて、実際の喫煙、喫煙シーンや喫煙関連シーンが、規制前と比較して大幅に増加していることが判明した。また、明らかに判別できる銘柄を出演者が喫煙するシーンや銘柄が容易に判読できるたばこ箱のシーンが急増していた。未成年者の喫煙防止をねらい、銘柄CMが自主規制されたことをドラマの制作側は再認識し、喫煙関連シーンのないテレビ番組の制作を期待するとともに、社会全体で若者の行動に多大な影響を与えるテレビなどの媒体にも注意を向け、未成年者が喫煙行動をしにくい社会環境をつくらなければならない。

キーワード たばこ、喫煙シーン、ドラマ、広告、社会的環境

I 緒 言

日本では、明治33年に世界でも類を見ない程早く「未成年者喫煙禁止法」を制定しているが、多くの人たちは未成年者の喫煙を黙認している。最新の全国中学校・高等学校の喫煙行動に関する全国調査によれば、喫煙経験者は男子では中

学1年生で22.5%、高校3年生で55.7%であり、女子ではそれぞれ16.0%、36.7%であった¹⁾。しかも、喫煙が危険因子のひとつとされる肺がんの年齢調整死亡率は男女とも急増し、昭和30年と比較すると、平成11年で男性6.0倍、女性4.5倍になっている²⁾。それにもかかわらず、市中では喫煙すれば環境が良くなるような錯覚に陥れ

* 1 川村学園女子大学教育学部社会教育学科教授 * 2 同人間文化学部生活環境学科教授

られそうな、美しい景色の広告(CM)やあたかも洋菓子のようなパッケージのCMなどが氾濫している。テレビ・新聞・雑誌・ポスター・看板を媒体として、幼児期から喫煙の好奇心を誘う。喫煙および副流煙による身体への有害性についての警告はせず、たばこについての良い印象のみが植え付けられ、たばこに対する抵抗力が育めない環境にある。

青少年の喫煙開始には、社会的環境および両親ならびに友人の喫煙行動に大きな影響を受けるとされている³⁾。Sargentら⁴⁾は、喫煙映画の喫煙シーンが青年の喫煙開始行動に大きな影響を与えることを報告している。日本でも、青少年のテレビ視聴時間が長いことはたびたび問題となっている。テレビでの広告は、欧米諸国では早くから全面禁止されていたが、日本では1998(平成10)年4月1日になって、ようやく日本たばこ協会は、テレビやラジオで、たばこ個別銘柄のCMを中止した。これと同時にテレビボード、インターネット上の銘柄CMと街頭での見本配布を自主規制した。しかし、曾根ら⁵⁾およびSone⁶⁾によって、テレビドラマなどを通して喫煙関連シーンがかなり放送されていると報告された。そこで、われわれは銘柄CMの中止前後に制作・放送されたテレビドラマの喫煙関連シーンを調査比較したところ、番組によっては意図的とも思われるような明らかに判別できる銘柄を喫煙するシーンがあることを報告した⁷⁾。

本論文では、タバコ問題首都圏協議会が2000年に発表したワーストスモーカーの1人にあげられた人気俳優が主演したドラマについて分析した。この俳優は規制前後に活躍し、定期的にドラマに主演している、現代を代表する若手人気スターである。また、主演するドラマは相次いで高視聴率を得ている、ヒットメーカーとしても知られている。規制前後に彼が主演したドラマについて調査したので報告する。

II 調査方法

(1) 測定方法

調査対象ドラマの収録ビデオから放送時間を

計測し、その中から喫煙に関連したシーンの解析を行った。喫煙関連シーンの回数はテレビの画面に出てきた回数であり、描写時間はその間の時間である。

(2) 喫煙関連シーン

喫煙関連シーンは喫煙に関するすべてのシーンであり、喫煙シーンとセットの道具などの場面の合計である。これらの内訳を以下に示した。

喫煙シーン：実際の喫煙(出演者の誰かが喫煙している場面)、たばこに火をつける、たばこの火を消す、副流煙、置きたばこ、銘柄描写シーンおよびセリフなどの場面の合計
セットの道具：火無したばこ(キセルやパイプを含む)、たばこ箱からたばこを出す、吸い殻、たばこ箱(銘柄不明)、ロパイプ、たばこ入れ、灰皿、灰皿・たばこセット、灰皿とマッチ(ライターを含む)、マッチ、自販機およびたばこ購入などの場面

(3) 「調査ドラマ」(放送回数、放送局、放送年)

規制前：「番組A」(11回、T社、1995年)、

「番組B」(11回、F社、1996年)、「番組C」(10回、T社、1996年)

規制後：「番組D」(12回、F社、1998年)、

「番組E」(11回、T社、2000年)、「番組F」(11回、F社、2001年)

「番組B」「番組E」「番組F」は、1977年9月26日以降に放送された番組(関東地区)の一般劇部門高視聴率ベスト10のうち、それぞれ第9位、2位、8位であり、「番組D」は、スリラー・アクション部門の第4位であった(ビデオリサーチ調べ)。また、「番組A」は、対象とした俳優の初期の作品であり、「番組C」は、1996年ドラマ大賞最優秀主演男優賞の受賞作品であったので、調査対象とした。

なお、「番組B」は、1996年ドラマ大賞の最優秀主演・助演の男・女優賞の4部門を独占し、第9回ドラマアカデミー賞(1996.6)の最優秀作品賞、最優秀主演・助演、男・女優賞の5部門を独占したドラマである。調査対象にしたスターが俳優として本格的に認められたドラマで

もある。特に、規制後のドラマはすべて最優秀主演男優賞を受賞しており、「番組E」は20世紀を代表するドラマ、「番組F」は21世紀を代表するドラマとして位置づけられている。

また、本調査のドラマはいずれも放送、再放送のみならず、ビデオテープやDVD化され、販売・貸し出しが行われているものである。

Ⅲ 結 果

表1に規制前後のドラマにおける喫煙関連シーンの比較を示した。喫煙関連シーンの回数は、「番組A」203回（1時間当たりの回数：24.0）、「番組B」135回（14.7）、「番組C」131回（16.0）であり、規制前の1ドラマ当たりの平均回数は156.3回（18.2）であった。規制後では「番組D」287回（28.6）、「番組E」139回（15.6）、「番組F」607回（67.7）であり、規制後の平均回数は344.3回（37.3）に倍増していた。1時間当たりの平均回数は規制前18.2、規制後37.3と増加し、規制前では3.3分に1回、規制後では1.6分に1回の割合で、喫煙関連シーンが見られた。

そのうち、喫煙シーンは、規制前の平均回数93.3回が、規制後には167.7回に、規制前の1時

間当たりの回数10.8が、規制後には17.9にそれぞれ増加した。特に、男性主人公の喫煙シーンの平均回数は、規制前には37.0回（4.3）であったのに対して、規制後には69.3回（7.4）であった。なお、これらのドラマにおいては、女性の喫煙シーンおよび物語上必然性を有する喫煙関連シーンは少なかった。

表2では、規制前後のドラマにおける喫煙シーンの内訳を比較した。実際の喫煙においては、規制前の平均回数53.3回（1時間当たりの回数：6.1）が、規制後には98.0回（10.5）に急増した。中でも「番組D」や「番組F」では100回を超えていた。1時間当たりの実際の喫煙回数は、規制前では10分に1回、規制後では6分に1回の割合であった。特に、男性主人公の実際の喫煙は、規制前の平均回数22.3回（2.6）が、規制後には47.7回（5.1）に倍増した。

実際の喫煙以外の喫煙シーンについても、たばこの火を消す以外のシーンは規制後に増加した。特に副流煙は規制前の平均回数7.7回が、規制後30.3回と激増した。男性主人公の副流煙の平均回数も、それぞれ2.3回と8.7回であった。

銘柄描写シーンの回数は、規制前5.0回（0.6）であったのが、規制後15.3回（1.6）であり、1

表1 規制前後のドラマにおける喫煙関連シーンの比較

	規制前				規制後			
	番組A 1995年	番組B 1996年	番組C 1996年	1ドラマ当たり の平均値	番組D 1998年	番組E 2000年	番組F 2001年	1ドラマ当たり の平均値
放送回数	11	11	10	10.7	12	11	11	11.3
放送時間(h:m:s) ¹⁾	8:27:42	9:10:48	8:10:00	8:36:10	10:03:00	8:55:00	8:58:00	9:18:40
喫煙関連シーン回数 ²⁾	203	135	131	156.3	287	139	607	344.3
うち喫煙シーン ³⁾	99	102	79	93.3	206	91	206	167.7
うち男性主人公	55	41	15	37.0	93	60	55	69.3
うち女性	-	9	-	3.0	1	-	2	1.0
うち必然性のあるシーン ⁴⁾	-	-	-	0.0	8	-	27	11.7
喫煙関連シーン時間(h:m:s)	0:39:46	0:11:48	0:14:28	0:22:01	0:22:53	0:26:59	0:51:30	0:33:47
うち喫煙シーン	0:24:32	0:09:41	0:09:28	0:14:34	0:13:43	0:18:11	0:14:05	0:15:20
うち男性主人公	0:10:14	0:04:29	0:03:30	0:06:04	0:05:37	0:15:13	0:04:35	0:08:28
うち女性	0:00:00	0:00:57	0:00:00	0:00:19	0:00:01	0:00:00	0:00:13	0:00:05
うち必然性のあるシーン	0:00:00	0:00:00	0:00:00	0:00:00	0:00:23	0:00:00	0:02:21	0:00:55
1時間当たりの回数	24.0	14.7	16.0	18.2	28.6	15.6	67.7	37.3
うち喫煙シーン	11.7	11.1	9.7	10.8	20.5	10.2	23.0	17.9
うち男性主人公	6.5	4.5	1.8	4.3	9.5	6.7	6.1	7.4
うち女性	-	1.0	-	0.3	0.1	-	0.2	0.1
うち必然性のあるシーン	-	-	-	-	0.8	-	3.0	1.3

注 1) ビデオの収録時間より算出

2) 喫煙シーンおよびセットの道具

3) 実際の喫煙、たばこに火をつける、たばこの火を消す、副流煙、置きたばこ、銘柄描写シーンおよびセリフなどの場面

4) 物語の内容から必要と思われたシーン

表2 規制前後のドラマにおける喫煙シーンの比較

	規制前				規制後			
	番組A	番組B	番組C	1ドラマ当たりの 平均値	番組D	番組E	番組F	1ドラマ当たりの 平均値
喫煙シーンの回数(再掲)	99	102	79	93.3	206	91	206	167.7
うち実際の喫煙 (男性主人公)	62 (31)	65 (25)	33 (11)	53.3 (22.3)	110 (64)	50 (42)	134 (37)	98.0 (47.7)
うちたばこに火をつける (男性主人公)	16 (12)	15 (6)	10 (3)	13.7 (7.0)	11 (7)	18 (15)	16 (7)	15.0 (9.7)
うちたばこの火を消す (男性主人公)	10 (7)	17 (8)	7 (1)	11.3 (5.3)	11 (6)	- (-)	4 (4)	5.0 (3.3)
うち置きたばこ	-	-	2	0.7	3	-	-	1.0
うち副流煙 (男性主人公)	8 (5)	4 (2)	11 (-)	7.7 (2.3)	46 (16)	8 (3)	37 (7)	30.3 (8.7)
うち銘柄描写シーン	3	1	11	5.0	22	13	11	15.3
喫煙シーンの時間(h:m:s, 再掲)	0:24:32	0:09:41	0:09:28	0:14:34	0:13:43	0:18:11	0:14:05	0:15:20
うち実際の喫煙 (男性主人公)	20:13 (7:51)	8:03 (3:31)	6:33 (3:21)	11:36 (4:54)	9:11 (4:27)	14:12 (13:37)	10:26 (3:52)	11:16 (7:19)
うち銘柄描写シーン	1:04	0:02	1:10	0:45	1:09	1:55	1:43	1:36
喫煙シーンの1時間当たりの回数(再掲)	11.7	11.1	9.7	10.8	20.5	10.2	23.0	17.9
うち実際の喫煙 (男性主人公)	7.3 (3.7)	7.1 (2.7)	4.0 (1.3)	6.1 (2.6)	10.9 (6.4)	5.6 (4.7)	14.9 (4.1)	10.5 (5.1)
うち銘柄描写シーン	0.4	0.1	1.3	0.6	2.2	1.5	1.2	1.6

表3 規制前後のドラマにおけるセットの道具の比較

ドラマ当たりの平均描写時間はそれぞれ45秒と1分36秒であった。全ドラマの放送回数は規制前は32回、規制後は34回であり、放送回数当たりの銘柄描写シーン回数も規制前の0.5回から規制後の1.4回と約3倍に増加した。たばこに関するせりふの回数も規制前では平均1.7回、規制後では3.0回であった。

	規制前				規制後			
	番組A	番組B	番組C	1ドラマ 当たりの 平均値	番組D	番組E	番組F	1ドラマ 当たりの 平均値
セットの道具の回数	104	33	52	63.0	81	48	401	176.7
セットの道具の時間(m:s)	15:14	2:07	5:00	7:27	9:10	8:48	37:25	18:28
1時間当たりの回数	12.3	3.6	6.4	7.4	8.1	5.4	44.7	19.4
内訳(セットの道具の回数)								
火無したばこ、キセル、パイプ	-	11	2	4.3	24	-	25	16.3
たばこ箱からたばこを出す	13	1	-	4.7	-	-	7	2.3
吸い殻	5	-	1	2.0	6	-	3	3.0
たばこ箱(銘柄不明)	5	2	8	5.0	29	-	17	15.3
パイプ	-	-	-	-	8	-	-	2.7
たばこ入れ	-	-	1	0.3	-	-	-	-
灰皿	65	15	37	39.0	10	36	306	117.3
灰皿・たばこセット	5	4	3	4.0	4	12	13	9.7
灰皿とマッチ(ライター)	6	-	-	2.0	-	-	-	-
マッチ(ライター)	5	-	-	1.7	-	-	26	8.7
自販機	-	-	-	-	-	-	4	1.3
たばこ購入	-	-	-	-	-	-	1	0.3

表3には規制前後のドラマにおけるセットの道具を比較した。規制前のセットの道具の平均回数は63.0回(1時間当たりの回数:7.4)であったが、規制後では176.7回(19.4)と激増した。具体的には、火無したばこ類、銘柄不明のたばこ箱、灰皿、マッチ、自販機のシーンの増加が著明であり、特に銘柄不明のたばこ箱や灰皿のシーンは3倍に増加した。1ドラマ当たりのセットの道具の平均時間は、規制前7分27秒、規制後18分28秒と著しく増加した。

IV 考 察

健康日本21では、生活習慣病の原因を個人の運動・食生活・飲酒習慣・喫煙習慣による責任として押しつけるのではなく、良い生活習慣を身につけるために社会的・環境的に支援する活動としてとらえている⁹⁾。しかしながら、たばこの自販機撤廃活動は遅々として進まず、喫煙防止を社会的に支援する環境づくりは遅れている。

喫煙行動には様々な要因が関与しているが、

Distefanら⁹⁾は、青少年に人気のあるスターによる喫煙が青少年の喫煙行動に影響を与えることを報告している。Goldsteinら¹⁰⁾は、子どものアニメ映画50本の2/3以上にたばこ・アルコール使用場面が慢性健康障害の警告なしにでてくると憂えている。また、Sargentら¹¹⁾は250本の映画を調査し、87%にたばこ使用場面があり、28%に銘柄描写場面があると報告している。

日本では毎日多くの放送局がドラマを放送している。一般にトレンドドラマにおいて、喫煙関連シーンは非常に多く見られる。曾根ら⁵⁾はアメリカのテレビドラマと比較して、日本のテレビドラマには喫煙関連シーンが非常に多いことを報告しており、広告規制後に、テレビでの商品広告以外のたばこ・喫煙のシーンが増加する可能性があることを指摘した。アメリカでは、広告規制前後と比較して、俳優の喫煙場面の増加が認められている¹¹⁾。著者らは、規制前後に放送されたドラマについて、セットの道具として使用されている灰皿などのシーンも含めて、詳細に喫煙関連シーンを分析調査することにした。放送されたすべてのドラマを調べることは不可能であるため、本調査では、ワーストスモーカーの1人にあげられた人気俳優に着眼し、彼が主演した規制前後のテレビドラマについて、規制後に喫煙関連シーンが増加しているかどうかを調査した。今回調査したドラマは、特に視聴率が非常に高く人気を博したものであった。いずれのドラマにも、提供や協力などにたばこ関連会社は含まれていない。それにもかかわらず、これらのドラマにおいて、実際の喫煙、喫煙シーンおよび喫煙関連シーンが、規制前と比較して大幅に増加していることが判明した。また、意図的とも思われるように、明らかに判別できる銘柄を出演者が喫煙するシーンや銘柄が容易に判読できるたばこ箱のシーンが急増していた。すなわち、いまだ調査数は少なく、調査した標本の結果を一般論として論じることは困難であろうが、曾根ら⁵⁾が杞憂している、喫煙関連シーンが増加する可能性をうかがわせる結果となった。今後も調査を継続し、調査本数を増やし確認していく予定である。

未成年者の喫煙防止をねらい、銘柄CMが自主規制されたことをドラマの制作側は再認識し、今後は未成年者の喫煙への好奇心や喫煙行動に影響を及ぼす、若手人気スターの喫煙関連シーンのないテレビ番組の制作を期待したい。さらに、病院での廊下に灰皿を設置したり、歩きたばこのシーンが見られるドラマもあるので、制作側は副流煙の有害性についても十分に注意を払う必要があろう。また、国民全体としてたばこによる健康被害の低減を達成するために、健康日本21の目標指標のひとつに、2010年までに「未成年者の喫煙をなくす」を掲げている⁸⁾。したがって、社会全体で若者の行動に多大な影響を与えるテレビなどの媒体にも注意を向け、未成年者が喫煙行動をしにくい社会環境をつくらなければならない。

文 献

- 1) 平成12年度厚生科学研究費補助金厚生科学特別研究事業「未成年者の喫煙および飲酒行動に関する全国調査」研究班。2000年未成年者の喫煙および飲酒行動に関する全国調査(修正版)報告書。2002; 11-2。
- 2) 厚生統計協会編。国民衛生の動向。厚生指針 2001; 48(9): 52-3。
- 3) Lynch B, Bonnie R. Growing up tobacco free—preventing nicotine addiction in children and youths. A report of the Institute of Medicine. Washington, DC: National Acad. Press, 1994。
- 4) Sargent JD, Beach ML, Dalton MA, et al. Effect of seeing tobacco use in films on trying smoking among adolescents: cross sectional study. BMJ 2001; 323: 1394-7。
- 5) 曾根智史, 藤崎清道。テレビのたばこ広告中止の予想される影響。厚生指針 1998; 45(4): 3-8。
- 6) Sone, T. Tobacco-related scenes in television dramas for young Japanese audiences. Tob Control 1999; 8: 350。
- 7) 坂口早苗, 細井香, 坂口武洋。テレビドラマにおける喫煙関連シーンの検討。日公衛誌 2000; 47(10): 209。
- 8) 箕輪真澄, 川南勝彦。IV. 推進方策。4. たばこ。多田羅浩三編。健康日本21推進ガイドライン。東京: きょうせい, 2001; 204-23。
- 9) Distefan JM, Gilpin E, Sargent JD, et al. Do movie stars encourage adolescents to start smoking? Evidence from California. Prev Med 1999; 28: 1-11。
- 10) Goldstein AO, Sobel RA, Newman GR. Tobacco and alcohol use in G-rated children's animated films. JAMA 1999; 281: 1131-6。
- 11) Sargent JD, Tickle JJ, Beach ML, et al. Brand appearances in contemporary cinema films and contribution to global marketing of cigarettes. Lancet 2001; 357: 29-32。